

【身近なワンヘルスの取組】

私が提案する身近なワンヘルスは「ゴミの分別を徹底しよう」です。

今では、当たり前のように皆さんがゴミの分別に取り組まれていると思います。また、多くの自治体でも、燃えるゴミや生ゴミ、プラスチックなどの分別が実施されています。

特別な事をやろうとすると、負担感があり県民の皆さんに「ワンヘルス」が浸透していかないと考えました。そこで、普段から県民の皆さんが取り組んでいる「ゴミの分別」を選びました。

私たちが、このテーマに関心を持った理由は2点あります。

1点目は、市町村職員としての視点です。「ワンヘルス」という言葉は、県知事のCM放送もあって、徐々に県民の皆さんに浸透しつつありますが、県民一人ひとりが日常の中で「ワンヘルス」を意識した行動にはまだまだ繋がっていないと感じています。ゴミ分別の啓発や分別表の配布は、市町村が実施する業務のひとつであるため追加のコストをかけずに「ワンヘルス」を意識した行動に繋げていくことが出来るからです。

2点目は、県民としての視点です。新たな取り組みへの参加を求めていくとどうしても「面倒」という心理的ハードルが生じます。ゴミの分別は、県民が日頃から取り組んでいることであって、そこに「ワンヘルスの視点」を価値付けすることで、これまでのゴミ分別がそのままワンヘルスの行動に繋がると思ったからです。

【県民への伝え方】

普段から行っている「ゴミの分別」が、実は「ワンヘルス」であることを強調して伝えることが重要だと考えています。ゴミの分別表に「やってる、もうワンヘルス。」というキャッチフレーズを載せることで、県民の関心を更に高めることができると考えます。また、人・動物・環境の健康はつながっているというワンヘルスの説明を、ごみの分別がめぐり巡ってワンヘルスにつながる事がわかる画像と共に載せます。(画像例「ごみの分別→リサイクル率の向上→燃焼ごみの減少→ダイオキシン等の削減→環境の保全→人・動物の健康」)

ごみの分別表は、各家庭日常で使っているもので、県内で各自治体に配布することで、より身近にワンヘルスのことを伝えることができます。

【期待される効果】

効果は3つの層で考えています。

第一に「意識変容」：既に習慣化されたゴミ分別という行動をワンヘルスと結びつけることで、県民が新たな負担なく自然にワンヘルスを「自分ごと」として意識できます。

第二に「即実装・広域展開」：県が共通テンプレートを1つ作成すれば、県内全市町村を通じて即座に展開できます。特別な設備投資も不要であり、費用対効果の高い施策です。

第三に「子どもたちへの教育効果」:子どもが日常的にゴミ分別表を目にすることで、ワンヘルスの考え方が次世代へ自然と伝わる教育効果も期待できます。

新たな取り組みへの参加を求めると、どうしても負担感が生まれます。だからこそ、すでに県民の皆さんが実践している既存の行動に、ワンヘルスという視点を重ねていく。その積み重ねこそが、意識を変える一番の近道だと考えています。